

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和6年8月23日（金）午前10時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【会見項目1：中越大地震から20年、住民参加の津波避難など 大規模地震に備えて防災訓練を実施】

（市長）

新潟県中越大地震から20年を迎え、大規模地震に備えた長岡市防災訓練を実施します。

中越大地震では、市内で28名の尊い命が失われました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

今年1月の能登半島地震の教訓を踏まえ、大規模地震発生および津波警報発表を想定した住民参加型の避難訓練を実施します。過去最多となる3,200人規模で実施します。

訓練内容の1つ目は、津波ハザードマップの改訂を踏まえた津波避難訓練についてです。

これは初めて実施する訓練です。

津波警報の発生と同時に、市公式LINEや緊急告知FMラジオなど、さまざまな手段で市民の皆さまに避難情報を配信し、実際に避難していただく訓練です。寺泊野積センターほか7会場、5団体約220人が参加します。

2つ目は、住民避難・指定避難所開設運営訓練についてです。

従来より拡充し、指定避難所183カ所を開設します。自主防災会など107団体、約2,280人が避難訓練に参加します。

今回の狙いは、市民の皆さまとの協働による迅速な避難所開設です。

また、自主防災会などによる避難所の解錠訓練を新たに実施します。

3つ目は、その他についてです。

NTT東日本新潟支店との連携によるドローンを活用した被災現場の映像配信を行います。

8月26日に、NTT東日本新潟支店と連携協定を締結します。

また、NTT東日本新潟支店や東北電力ネットワークなど関係機関からリエゾン（情報連絡員）として災対本部に入っていただき、しっかりと連携を図っていきたいと思います。

市民の皆さまの防災意識の向上と地域防災力の強化を進めていきたいと考えています。

（記者）

津波ハザードマップ改訂について、寺泊地区への周知方法を教えてください。また、NTT東日本新潟支店との連携によるドローンの活用について、映像はリアルタイムで市に共有されるのか教えてください。

（危機管理防災本部長）

津波ハザードマップについては、7月25日発行の市政だより8月号に同封し、寺泊全世帯に配布しております。変更点は、津波警報をもって避難指示をすること、浸水想定区域以外の方の安全確保の選択肢などを記載しております。

また、NTT東日本のドローン映像ですが、リアルタイムで災害対策本部に共有されます。

（記者）

地震や津波発生時の避難について、車での避難で渋滞が発生するという問題がありますが、今回の訓練で渋滞防止に向けた対策などがあれば教えてください。

(危機管理防災本部長)

今回の避難訓練は、原則徒歩で避難していただきます。

車での避難が必要な方々が渋滞に巻き込まれないよう、皆さまに避難方法を知っていただくことが大事だと思っています。

(記者)

今回の訓練には、高齢者施設からの避難もあるのでしょうか。

(危機管理防災本部長)

高齢者施設の参加はありません。

(記者)

5団体約220人は具体的にどういった団体ですか。

(危機管理防災本部長)

各町内会の自主防災会になります。

(記者)

107団体は具体的にどういった団体ですか。

(危機管理防災本部長)

自主防災会と町内会になります。

【会見項目2：小学校をリノベーションし新たな地域の防災拠点へ機能強化した長岡消防署小国出張所が業務開始！】

(市長)

機能強化した長岡消防署小国出張所の業務開始についてです。

令和5年7月から小国出張所の整備工事を進めていましたが、今月末に竣工を迎え、9月1日から新庁舎で業務を開始します。

旧庁舎から北へ約2.3キロ離れた、旧下小国小学校をリノベーションしました。

旧校舎棟1、2階を事務室や個室仮眠室に改修し、消防車両3台を格納できる車庫棟を増設しました。

また、グラウンドに消雪整備を完備した通年利用可能な防災ヘリポート整備し、機動的な救急・救助活動が可能となります。

新庁舎の概要についてです。

特色としては、仮眠室、洗面、シャワー室など女性職員が勤務できるスペースを確保したこと、救急講習や消防団会議などで地域住民の方が使用できる会議室や多目的スペースを整備したことなどです。新庁舎の延べ面積は約3倍となり、設備も整い、職員も働きやすくなると考えております。女性活躍の推進、消防体制の充実・強化も図れると考えております。

開所式についてです。

8月31日に関係者約50人で、開所式を行います。

午後からは地元住民の皆さまを対象に内覧会を実施します。実際に新庁舎をご覧いただき、消防活動への理解や、安全性の強化を実感していただければと思います。

生まれ変わった小国出張所を地域の新たな防災拠点施設として、地域の安全安心のために今後も消防力の向上に努めてまいりたいと思います。

(記者)

小国出張所に女性職員は何人いるのか、また、消防全体で女性職人は何人で、何割を占めているのか教えてください。

(消防本部消防長)

小国出張所に女性職員はいません。消防全体で女性職員は8人おり、割合は2.4%です。

**【会見項目3：“野菜ソムリエプロ”緒方湊さんもおすすめ！
大口れんこんの魅力を「ふるさと納税」で全国へ】**

(市長)

ふるさと納税についてです。

市の特産品である大口れんこんをPRするため、大口れんこん生産組合と協力して、ふるさと納税の返礼品に新たなラインナップを追加し、申し込み受付を開始します。

長岡市中之島地域大口地区は、新潟県を代表するれんこん産地です。れんこん栽培に適した肥沃でミネラル豊富な土壌に加え、生産者の土づくりへのこだわりで、甘みの強いシャキシャキとした食感で美味しい、そして、見た目も美しいれんこんが生まれています。

高い品質と価値が評価され、国のブランド保護制度（GI制度）にも登録されています。

晩生品種の「ダルマ」は、中之島地域が全国唯一の生産地となっております。

今年の返礼品から、消費者ニーズを汲んだ従来の半量サイズの「2キロ」と「芽れんこんを含んだセット」を追加しました。芽れんこんは、れんこんの先端部分で、えぐみが少なく軟らかいのが特徴です。

上通小学校の児童が、大口れんこんの良さをたくさんの人に伝えようと作成したレシピ集を返礼品に同梱し、生産者や児童の想いを伝えていきます。

緒方湊さんの特集記事についてです。

最年少野菜ソムリエプロの緒方湊さんが、初めて生産地を訪問し、生産組合長の高橋秀信さんと大口れんこんの魅力について語り合う様子を記事にしました。ふるさとチョイスに掲載していますので、ぜひご覧いただければと思います。

(大口れんこん組合 高橋生産組合長)

今年は8月7日から出荷が始まり、早生品種は10月末まで、11月からは「ダルマ」を出荷します。シャキシャキとした歯ざわりで、かめばかむほど甘みが出るれんこんです。自信を持って皆さまにおすすめしたいと思います。

(市長)

現在、長岡のふるさと納税は、約900点の返礼品を用意しています。特産品を中心として魅力のある返礼品を取り揃えております。

これからも長岡の魅力発信を進めていきたいと思っています。

(記者)

生産者の人数、生産量を教えてください。

(高橋さん)

60軒の農家で、生産量は約1,000トンです。

(大口れんこん組合 高橋生産組合長)

緒方さんとの対談の中で、大口れんこんの美味しい食べ方の話などがあったら教えてください。

(大口れんこん組合 高橋生産組合長)

一番喜んでもらえた食べ方は、軽く茹でた大口れんこんを、網の上で醤油を塗りながら焼く「焼きれんこん」です。

(記者)

芽れんこんは全国でも販売しているのですか。

(大口れんこん組合 高橋生産組合長)

数に限りがありますが、販売されています。

(記者)

大口れんこんの芽れんこんは、県外にあまり出荷されていないのですか。

(大口れんこん組合 高橋生産組合長)

組合からは県内の市場にしか出荷していません。希少です。

【同時リリース：コニカミノルタジャパン株式会社と連携協定を締結】

(市長)

コニカミノルタジャパン株式会社との連携協定についてです。

8月27日ミライエ長岡で、連携協定の締結式を行います。

コニカミノルタジャパン株式会社は、デジタル技術や映像技術による地域活性化やDX推進を通じて、さまざまな地域および行政の課題解決をしたいと思っている会社です。双方のニーズや思いが一致したため、連携協定を締結します。

詳細については、締結式の当日にご紹介いたします。

【その他の質問】

(記者)

原発について、東京電力は6、7号機が再稼働すれば、2年以内に1から5号機の廃炉の道筋を検討することを発表しました。これについて市長の受けとめをお願いします。また、柏崎市長が再稼働の要請があれば答えられる段階に至ったと判断を示しておりますが、どう評価しているか教えてください。

(市長)

1から5号機の廃炉の道筋を検討するという意思表示については評価したいと思います。

しかし、最終的に1から5号機の廃炉が方針決定されるかについては、きっちりと見極めていきたいと思っています。

再稼働についての是非を議論するための材料が全然整っておりません。山積している問題について、国から一つずつ説明していただき、県民、市民がそれを理解し、納得していくことが大切だと思います。私は時間をかける必要があると思っています。

(記者)

2022年に鳥越クリーンセンターの男性作業員が亡くなった事故について、当時クリーンセンターで働いていた市職員3人が業務上過失致死の疑いで書類送検されました。これに対して受けとめをお願いします。また、遺族の方から市の説明不足が指摘されていますが、これに対する考えをお聞かせください。

(市長)

書類送検された事実を長岡市は把握できておりません。問い合わせをしましたが、お答えいただけていない状況です。

書類送検された前提で申し上げますと、これまで通り捜査に全面的に協力していきたいと思っています。

また、司法の場で長岡市の考えについて、説明を尽くしていきたいと思います。

(記者)

遺族から市の説明不足について指摘がありました。その指摘についてはどうお考えですか。

(市長)

遺族の方々には、説明すべきこと、説明できることについては、説明していると思っております。しかし、原因については、捜査の対象になりますので、推測を申し上げることは不適切であり、捜査に協力する中で司法の判断を仰いでいく考えです。

(記者)

先程の原発についての質問の続きです。柏崎市長の再稼働を容認するような考えについて、どうお考えでしょうか。

(市長)

柏崎市長の判断については、柏崎市長としての考えがあると思います。

しかし、長岡市としては、再稼働を判断する材料が全然揃っていないと考えています。さまざまな課題について、国から責任ある説明があり、住民説明会で周知され、その後再稼働についての是非を判断すべきだと思っております。

(記者)

先月から行われていた国による原発の住民説明会について、参加者アンケートで「理解が深まらなかった」という回答が6割に上ったことについて、どうお考えでしょうか。

(市長)

国、東電は重く受け止めるべきだと思います。

県内各自治体や長岡市からの要請、質問などに国が責任をもって説明できる状況になっていないため、説明内容が不十分になっていると思います。

(記者)

新潟県知事が原発再稼働の是非を判断する時期について、遅くとも任期満了までに考えを示すと県内の一部首長に伝えたようですが、市長は言及を受けたのか。また、判断する時期を言及したことについて、見解をお願いします。

(市長)

再稼働の是非を判断する時期について、直接知事から聞いたことはありません。

任期満了までに判断するとのことですが、政治日程に合わせて再稼働の議論が進むことは本末転倒だと思っております。さまざまな問題に対して、国から説明があり、住民の皆さまがどう判断するかというプロセスが一番大事だと思います。

(記者)

長岡花火について、今年はチケットの高額転売や、ドローンによる花火中断がありました。二日間の総括と、このような新たな問題について考えを教えてください。

(市長)

天候に恵まれ、事故もなく、良い花火大会を多くの皆さまの協力で開催できたと思っております。心から感謝申し上げます。

ご指摘のあった問題については、他の問題とともに花火財団で検討しなければならないと考えています。

(記者)

原発再稼働の件について、柏崎市長が東電から要請があった場合、答えられる段階に至ったと表明されたことに対し、市長としては、今の段階では判断材料が揃っていないという見解でよろしいですか。

(市長)

柏崎市長の発言の真意を承知していないので、それに対する論評は控えます。

さまざまな質問や要請に対し、国から責任ある回答が行われておらず、いまは再稼働の議論の段階ではないと思います。